

令和7年度第3回二宮町総合教育会議

日時：令和8年2月19日(木)

13時30分から

場所：二宮町町民センター2Aクラブ室

1 開会

2 町長挨拶

3 協議・調整事項

(1) 子どもの権利について

(2) 不登校対策について

4 閉会

二宮町の不登校の状況



©東京ハイジ／二宮町

令和8年2月19日(木)

二宮町教育委員会教育指導課

長期欠席者における不登校の定義

長期欠席者とは

年度間（4月から3月）に30日間以上欠席した児童生徒

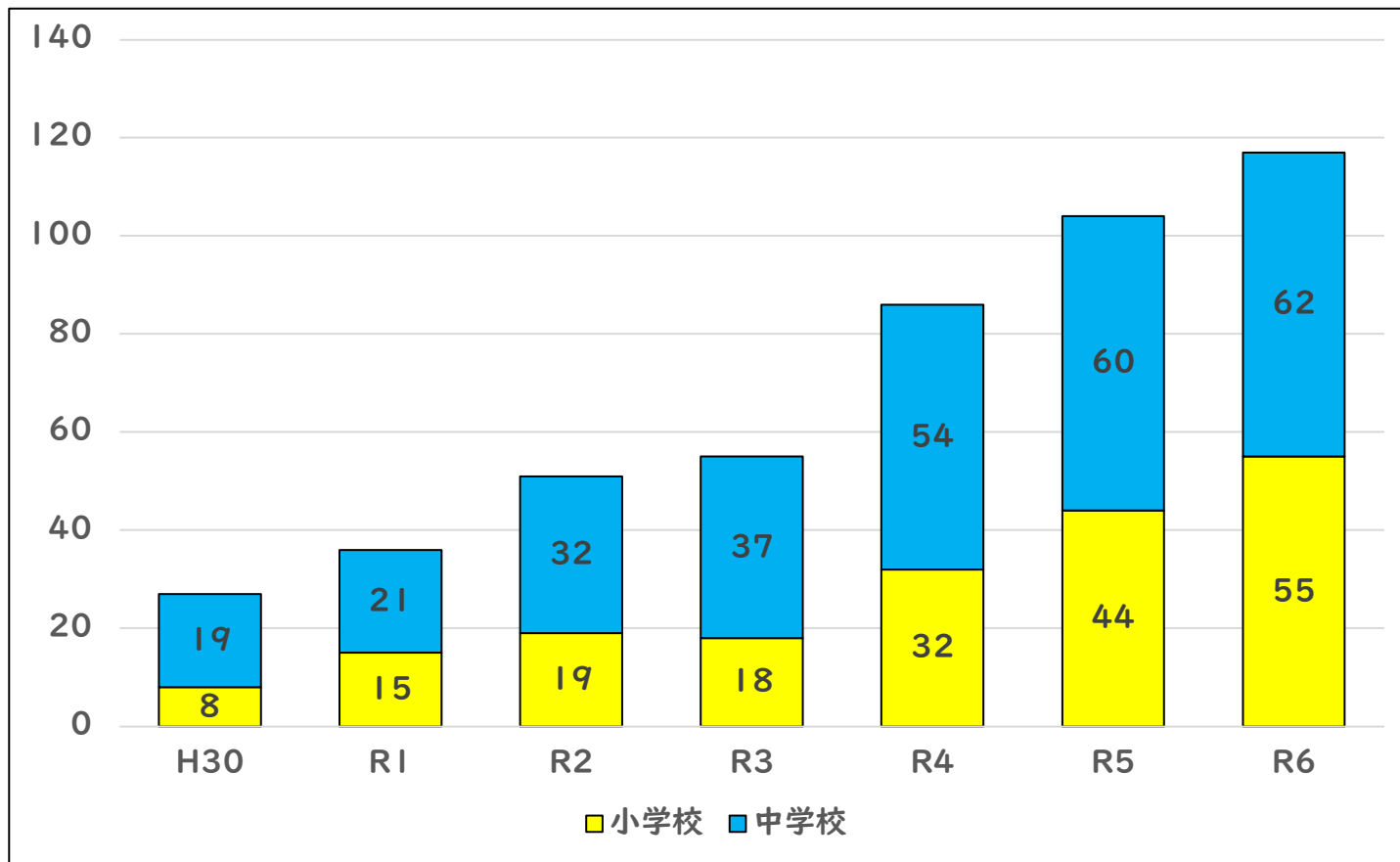
⇒「病気」、「経済的理由」、「**不登校**」、「その他」の4種類

長期欠席者のうち**不登校**とは

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省より）

二宮町立学校の不登校児童生徒数の推移



二宮町立学校の令和6年度の不登校児童生徒の内訳

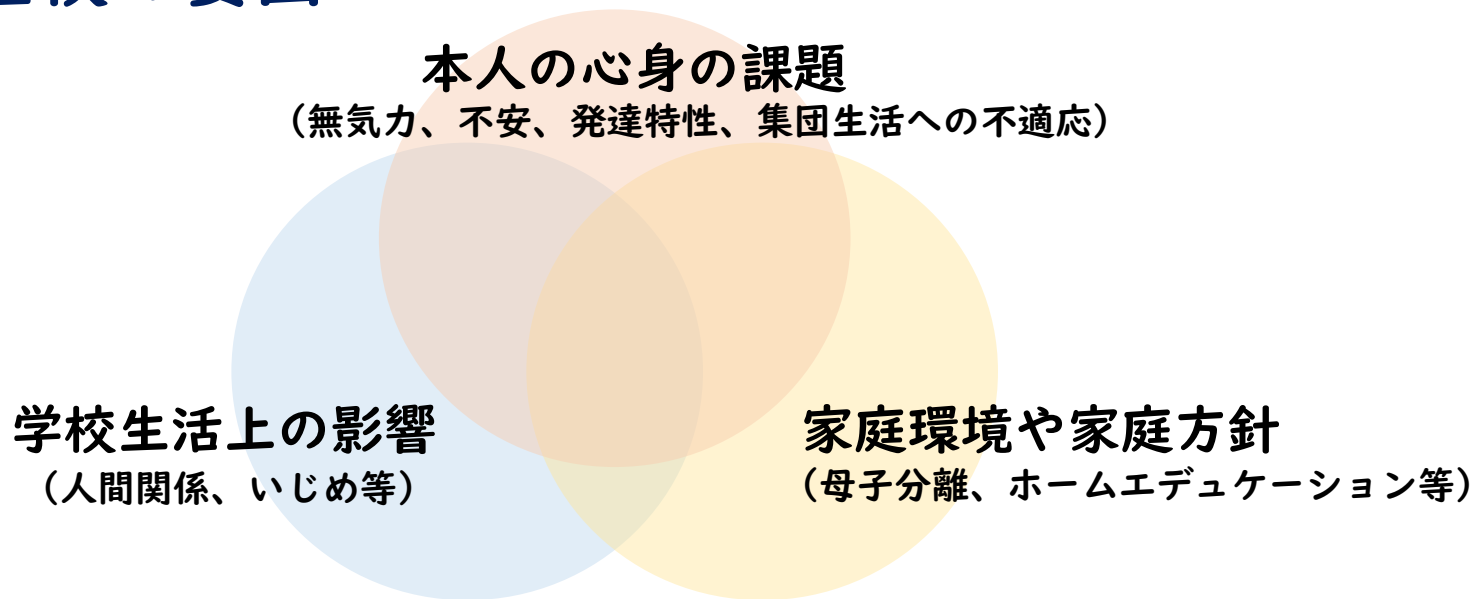
小学校

不登校	うち、50日以上欠席している者			
	うち、90日以上欠席している者			うち、出席日数が0日の者
	うち、出席日数が10日以下の者			
	55		38	
	20		4	
3				

中学校

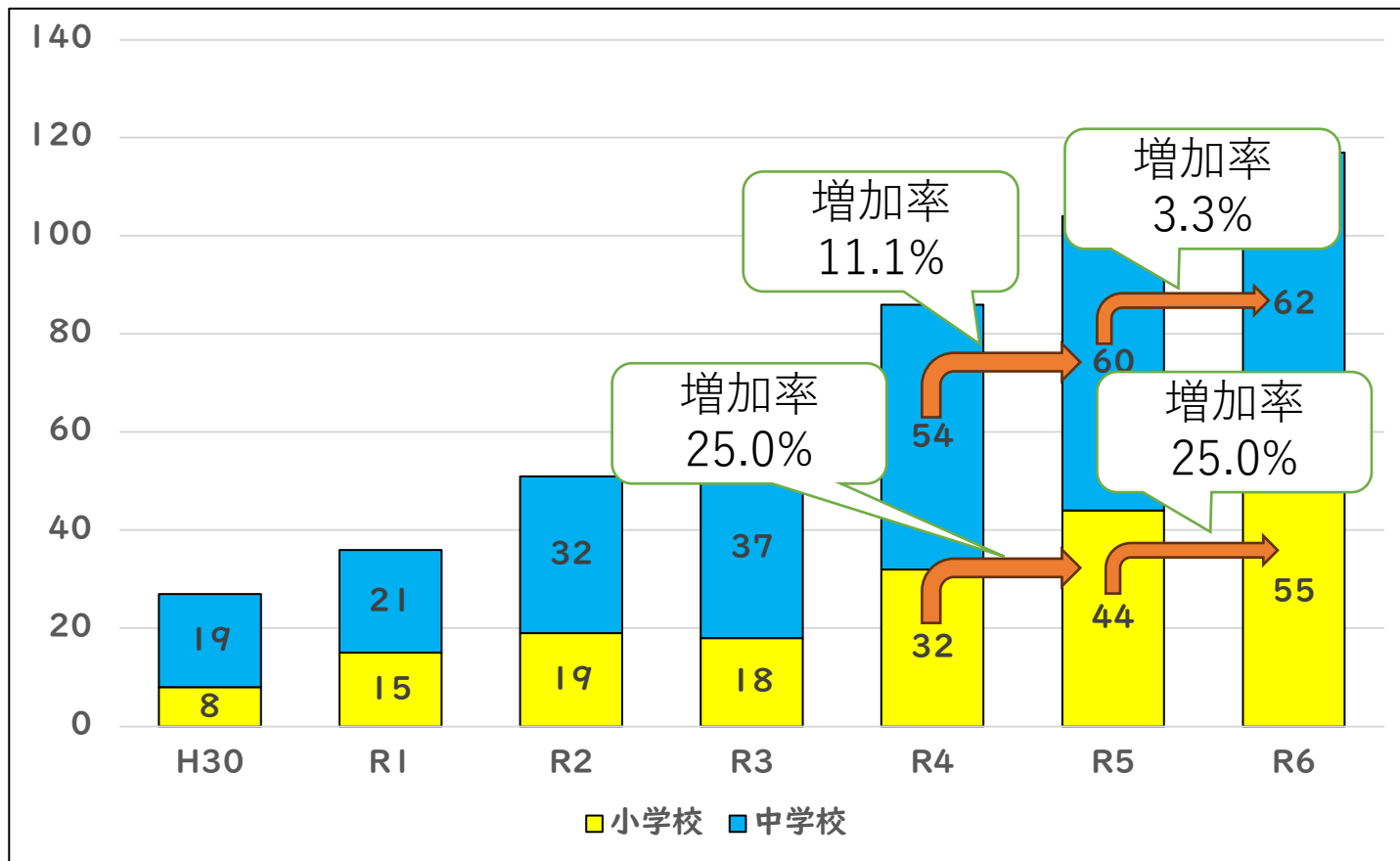
不登校	うち、50日以上欠席している者			
	うち、90日以上欠席している者			うち、出席日数が0日の者
	うち、出席日数が10日以下の者			
	62		48	
	34		2	
0				

不登校の要因



- ※要因は一人一人異なる。複合的になっていることが多い。
- ※近年は小学校低学年も増加傾向にある。
- ※専門職と連携した適切なアセスメントに基づく支援が必要。
- ※個別指導や居場所の確保など個に応じた支援が必要。

二宮町立学校の不登校児童生徒数の推移



二宮町立学校の長期欠席者数（30日以上欠席） （4～12月）

	令和6年 4～12月	令和7年 4～12月
小学校	47人	45人
中学校	49人	46人



減少

※速報値

二宮町立学校の長期欠席者の総欠席数 (4～12月)

	令和6年 4～12月	令和7年 4～12月
小学校	3563日	3321日
中学校	4204日	3936日

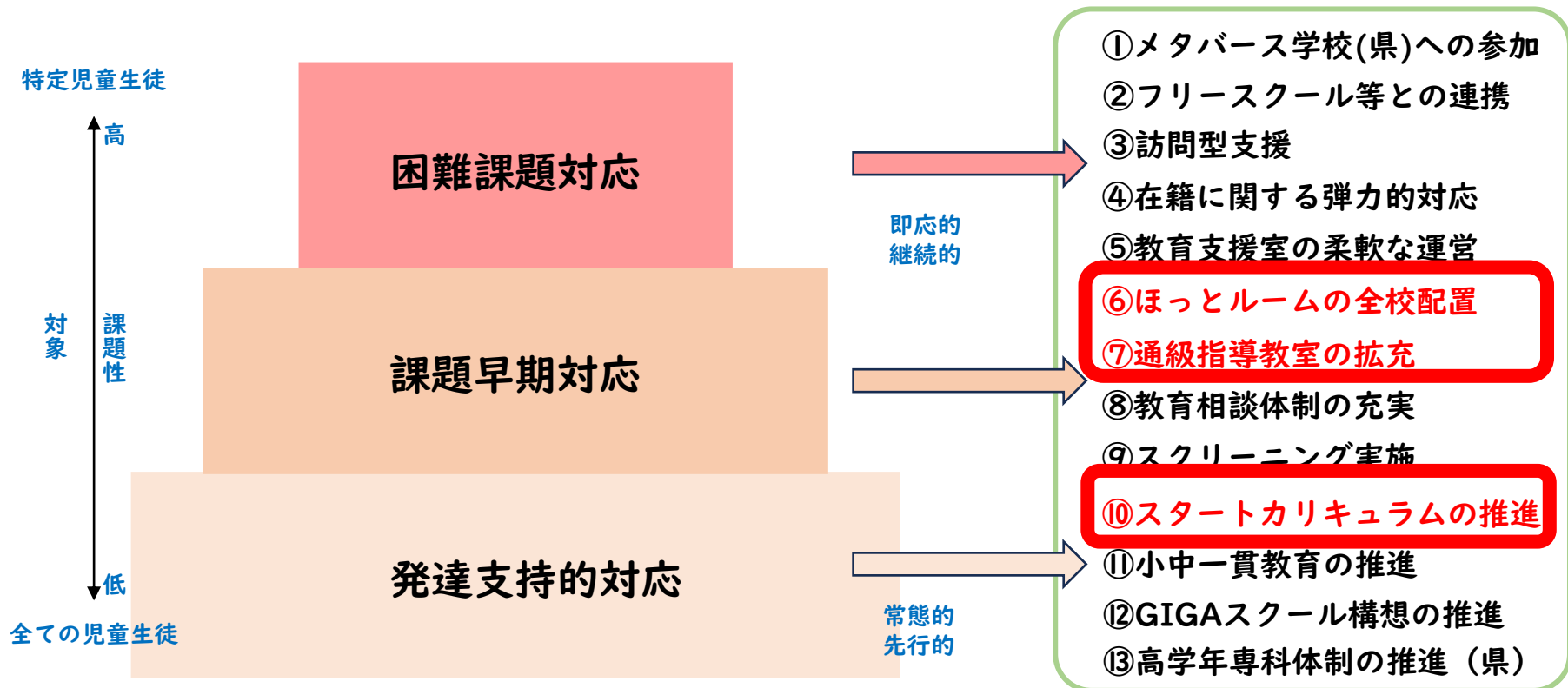


減少

※速報値

これは、令和5年度から令和7年度にかけて
行った不登校支援が効果を表しているのではないか？

重層的支援構造モデル

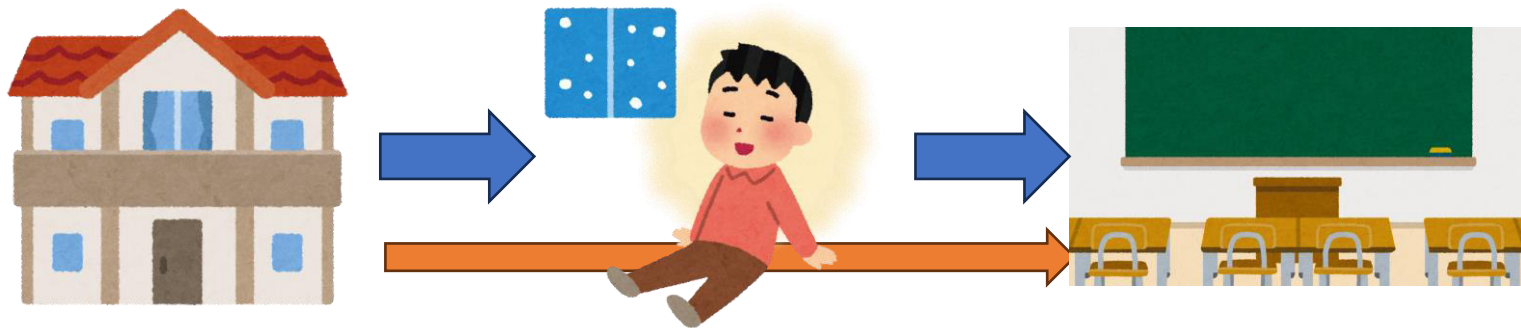


令和5年度からの不登校支援

- ⑥校内教育支援室「ほっとルーム」全校配置
- ⑦通級指導教室「リエゾン」の開設
- ⑩スタートカリキュラムの推進（幼保こ小の連携）

校内教育支援室「ほっとルーム」

- ・クラスに入りづらいと感じている児童生徒が安心して過ごせる居場所として校内に設置している。
- ・教育支援員や教員等が常駐し、支援を行う。
- ・町内5校すべてに設置している。



校内教育支援室「ほっとルーム」を活用している児童生徒数

(週に1時間以上利用している児童生徒数)

学年	1	2	3	4	5	6	合計
小学校 (3校)	3	3	3	1	2	1	13人

学年	1年	2年	3年	合計
中学校 (2校)	0	3	6	9人

不定期ではあるが、ほっとルームで落ち着いてから教室に向かう児童生徒も存在する。上記の児童生徒以外にも使用している児童生徒がいる。

校内教育支援室「ほっとルーム」の成果と課題

【成果】

- ・ほっとルームで得られる安心感が登校への動機づけや自分の教室に戻るきっかけになっている。（ほっとルームがなかったら、欠席になっていた。）
- ・昨年度、利用していたが、今年度は学級で過ごせるようになった児童もいる。

【課題】

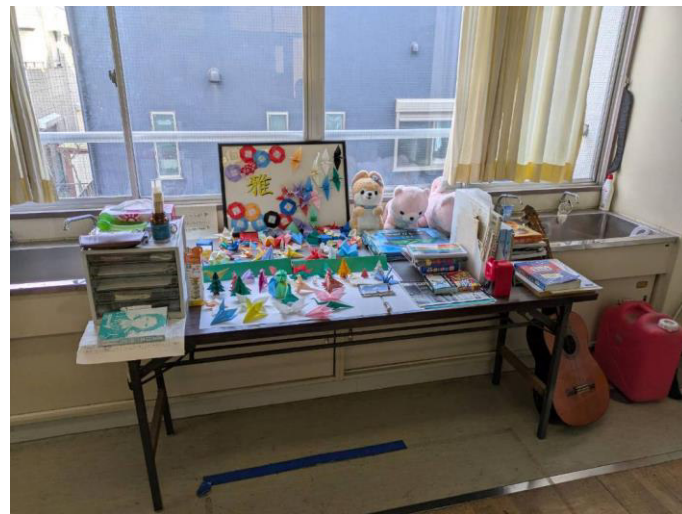
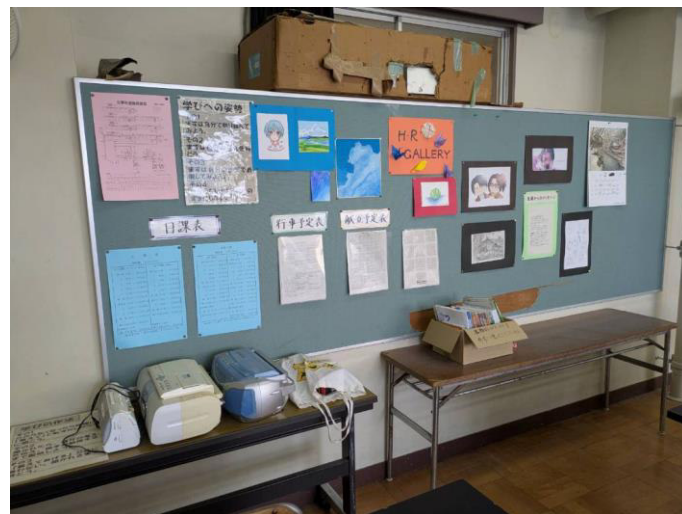
- ・教職員のほっとルームへの理解が統一しきれていない。
- ・人員の確保。

「ほっとルームの存在は大きい。」
「ほっとルームはなくてはならない存在である。」
校長や教頭、児童生徒指導担当、教育相談Coから声がある。

ほっとルームの教室の様子①



ほっとルームの教室の様子②



通級指導教室「リエゾン」

- 対象：コミュニケーション等に課題を抱える児童
- 場所：小学校3校に設置
- 方式：巡回方式（自校通級）
- 配置：教諭2名（2名一緒に巡回）
- 通室：25名（令和7年12月）

通級指導教室「リエゾン」での指導

- ・ソーシャルスキルトレーニング (SST)
 - ①対人関係の築き方 (コミュニケーション能力の向上)
 - ②感情のコントロール方法
 - ③場に応じた適切な行動
- ・自己理解・他社理解
 - ①自分の特性や得意・不得意への理解
 - ②自己表現の方法

通級指導教室「リエゾン」の成果と課題

【成果】（子ども、保護者、教員からの声）

- ・子どもが学校へ登校できるようになった。
- ・学校でのトラブルが減った。
- ・家庭内でも落ち着きが見られるようになった。

【課題】

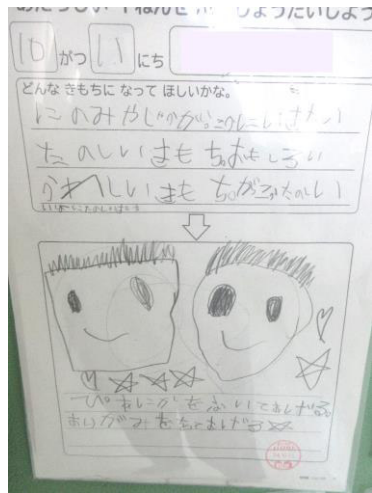
- ・各校の通室生のばらつき（基準のばらつき）
- ・安定的な運用（フローの整理）
- ・研修機会の確保（町内、町外）
- ・学習環境の充実

スタートカリキュラムの推進 (幼保こ小の連携)

町内一斉 児童・園児の交流会

小学校3校 1年生 182名 幼稚園・保育所園児 211名

新しい1年生を招待しよう



スタートカリキュラムの推進 (幼保こ小の連携)

教員の交流

小学校参観 (5月・10月)

幼稚園参観 (幼稚園に行こう週間) 5月～6月



先生は簡潔に分かりやすい話し方で話し子どもたちの言葉に考えて返していますね。



小学校の最初の教育は幼稚園の形を取り入れてつないでいくのがいいとわかります。

わくわくたいむ
自分で決めて考える学びの時間

スタートカリキュラムの推進 (幼保こ小の連携)

教員・保育者の交流

交流会（5月・11月） 合同研修会（8月）



小学校・幼稚園の実践報告



寶來生志子先生講演会
「幼保小の連携の推進について」



教育内容についての話し合い

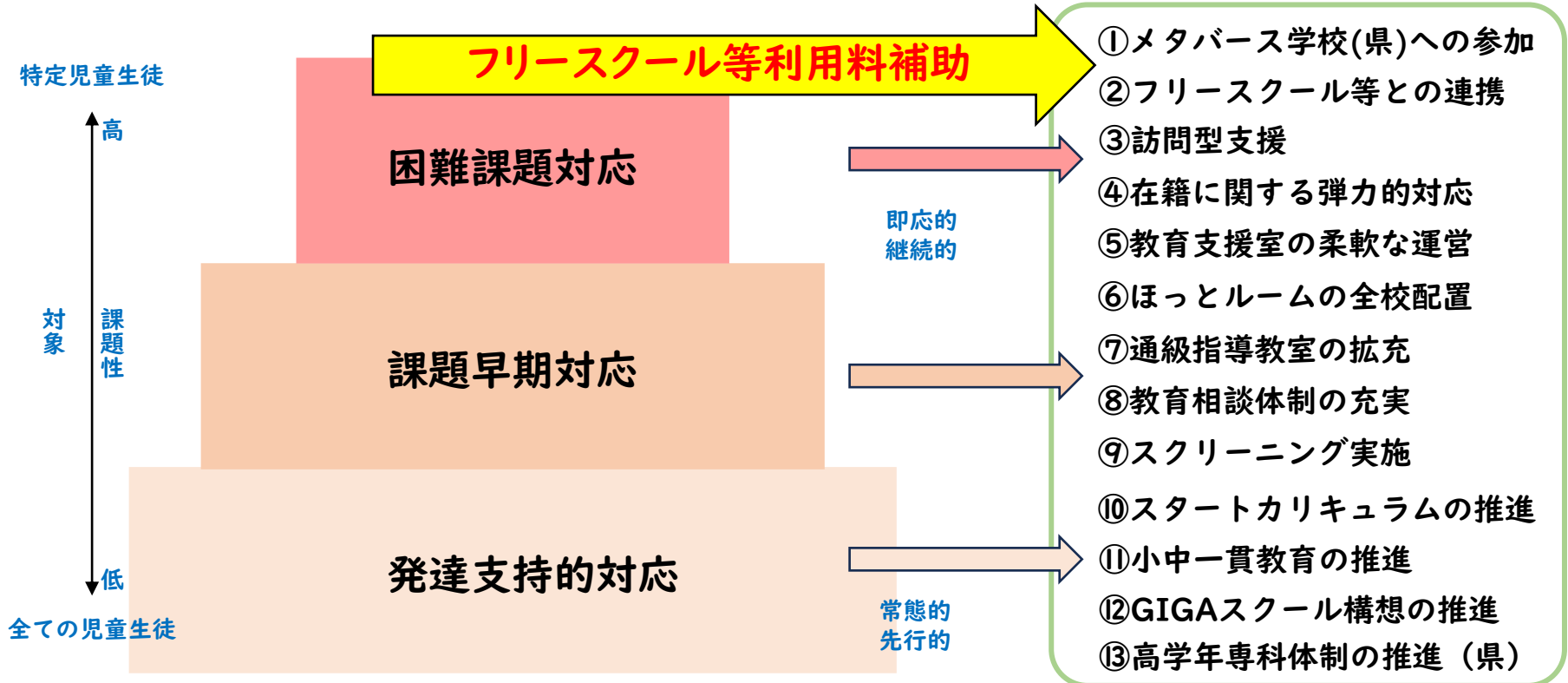
フリースクール等との連携

・町内のフリースクール等

- ①フリースクールのぞみ教室（星槎学園）
- ②とどまる学園
- ③あそびの庭

児童生徒指導担当者・教育相談CO担当者会に年2回参加していただき、フリースクールの取り組みの紹介や情報交換等している。

重層的支援構造モデル



フリースクール等利用料補助

- ・フリースクール等に利用する児童・生徒の保護者について、補助金を支出し経済的負担を軽減を行い、フリースクール等を利用しやすい体制を整える。

趣旨	対象者	対象経費	施設基準	不登校基準	補助金額
保護者の負担 軽減 学びの場確保	小中学校 (月に1回以上 通所)	・授業料 ・入学費 ・教材費 フリースクールから 請求されるもの に限る	・法人が経営 ・1年以上の実績 ・週1回以上の開所 ・学校との連携等	1年以内に 30日以上欠席	補助率:2/3 (上限1.5万円 /月)

重層的支援構造モデル

町の取り組みの強化

